

**調査期間** 2007年4月1日～継続中  
**所在地** 伊勢原市西富岡  
**時代** 近世、中世、奈良・平安、古墳、  
縄文、旧石器  
**調査原因** 中日本高速道路株式会社による  
新東名高速道路建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 小田急小田原線伊勢原駅の北方  
約2kmの富岡丘陵に位置する。



### 主な調査成果

近世の遺構は、掘立柱建物跡や宝永火山灰を廃棄した土坑、井戸、炭焼き窯、道などが見つかっています。34・35区では、溝で区画された掘立柱建物群と井戸が隣接して見つかっていません。現在の道の下を調査したところ、同じ場所から直線的に延びる硬化面が見つかり、近世にも道として機能していたものと思われます。

中世の遺構は、竪穴状遺構や掘立柱建物跡、地下式坑などが見つかっています。10区北では、複室の地下式坑も見つかっています。

古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、竪穴式住居と掘立柱建物跡、大型溝、円形土坑等が見つかっています。16区H21号掘立柱建物跡は、布堀り（柱と柱を溝でつなぐ）の掘立柱建物で、溝が全周に巡っています。竪穴住居の中には、建て替えを行った痕跡やカマドの横に棚状施設を持つ住居が見つかっています。35区からは、大型の溝が2条接して見つかっていません。H1号溝の方が新しく、H3号溝の東側肩部を壊しています。H1号溝は幅約2.5mで深さは約1m、H3号溝は幅約5.4m、深さは約2mを測ります。

縄文時代の遺構は、敷石住居跡や竪穴式住居跡・埋甕・土坑・集石が見つかっています。主に縄文時代後期の遺構が中心で、敷石住居の隣接地で、同時期の埋甕も見つかっています。

旧石器時代では、相模野台地のL1H～B1層に相当すると思われる土層から凝灰岩、黒曜石などを主体とした石器や礫群が検出されています。



10区北 K1地下式坑全景



34・35区 H1・3溝北壁断面